

KSKQ あかねニュース No.61

川西市障害者共働作業所あかね

〒666-0017 川西市火打1-5-19

Tel&Fax 072-755-4101

ホームページ akanesan.net

E-mail: rassyai-akane@deluxe.ocn.ne.jp

『差別用語』・断想

発売直後に早くも百万部を突破し、今でも売上げが落ちない驚異的ベストセラー、村上春樹「1Q84」の第1巻に、こんなやりとりの一節があります。

文芸誌の仕事を手伝う予備校教師の男主人公・川奈天吾と、その文芸誌で新人賞をとった謎の美少女・ふかえりとの会話。彼女の記者会見に備えたレクチャーのシーンです。

天「(記者役として) 物語の筋はどこから思いついたのですか？」
ふ「めくらのヤギからでました。」
天「めくらははずいいな・目の見えない山羊と言った方がいい。」
ふ「どうして・・・」
天「めくらっていうのは差別用語

なんだ。そんな言葉を耳にしたら、新聞記者の中には軽い心臓発作を起こす人もいるかもしれない。」

ふ「サベツヨウゴ」

天「説明すると長くなる。とにかくめくらの山羊じゃなくて、目の見えない山羊に言い換えてくれないかな。」(以下略)

「軽い心臓発作」は村上氏一流のブラックユーモアとしても、要は問答無用、理屈抜きに差別用語はご法度なんだ、ここは何も聞かずに俺の言うとおりに頼むよ、という「腫れ物に触るような」メディア関係者たちの過敏さがよく伝わってきます。

「差別用語」が取沙汰されるようになったのがいつ頃からは知りません。思うに、1980年代の「国際障害者年」のあと、ノーマイゼイションが声高に叫ばれはじめた頃から、急激に関心が高まったのであろうと推察されます。

事実、終戦後しばらくの間は、「差別用語」(ほぼ同義語と思われる「放送禁止用語」も)と呼ばれている一連の言葉は、私たちの生活の中で、かなり頻繁に飛び交っていました・・・それが意図的に悪意や軽蔑をこめて発信されたか、全く悪意なく迂闊にまたは無神経に口にされたかほとんどかくとして。

「きちがひといふおどろしき名をばもて、ひとは智恵子を呼ばむとすなり」という歌は、ご存知の高村光太郎『智恵子抄』の巻末近くに出ています。(つづく)

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円

古典落語『寿限無(じゅげむ)』『近日息子』などの主人公もその「智恵の周りの悪さ」ぶりが笑いを誘いますし、一連の『与太郎シリーズ』で親しまれている人気者も、どうやら「他聞にもれず」。

あの「国民的漫画」「サザエさん」にさえも、わけのわからないことをいう少年を指して「こ(こ)頭」が「ヘンだよ」「気の毒にねえ、小さいときに脳膜炎を患ったんだよ」とお婆さんたちが囁きあう、というのがありました。(初期のものですが)

私が今でも強烈に記憶しているのは、小学校に上がる前の年ぐらいに(当時は幼稚園に行ける環境になかった)、近くの公立小学校の運動会へ親に連れて行ってもらつて、そこで見た「めくらとおし」という競技です。二人一組になり、一人は目隠し、もう一人は鉢巻で口を縛ります。ヨーイドンで、口を縛った「おし役」は手に持ったタンバリンを目隠しした「めくら役」の耳元でたたきまくる(こつちだこつちだ!といわんばかりに)叩く。

それでも「めくら役」はわけが分からず

あつちの方へ突進してしまつたり・観客はそれを見て笑い転げる、といった展開でした。さすがに子供心に「こんなふうにしていいのかなあ」と思ったものでした。ハンディを背負ったのは、本人とその家族・親族(ひいては先祖?)のせいであつて、彼らは社会から軽蔑され片隅に追いやられて当然なのだ、という風潮がまだ根強く残っていた時代だった、としか説明のつけようがありません。



翻つて、こんにちの風潮はといえば、前述したとおり「腫れ物に触るような」敏感な反応です。メディア関係の会社は、社内「差別用語(放送禁止用語)審査委員会」なるものを作り、特に「なま番組」オンエア中は神経を尖らせます。出演中のスターがうっかり、きわどい

発言などしようものならリアルタイムで本人に「お詫びと訂正指令」が飛び、スターは番組の中で「さきほどは私の不注意で、云つてはならない言葉を口にしてしまいました。ごめんなさい。」などと、しおらしく頭を下げるようになります。

もとよりこのことには、世の中のハンディを背負った人たちに対する深い同情と配慮が根底にあり、その意味で、否定されるべきことでは全くありません。

それにも拘わらず私たちが、こうしたメディアの敏感な反応に何か違和感を抱くのは、『とにもかくにも、ハンディを持つ人が聞いたら傷つくような単語は無条件に封じ込めること。』そのものが目的のようになつていて、その迅速かつ行き届いた対応が、かえつてどこか空々しく感じられるからではないでしょうか?

「ハンディを持つ人からクレームが来るから」「一般視聴者からお叱りが来るから」・・・だから禁止する。というのではまるで、電車の中で靴を脱がずに椅子に乗つて窓の外を見ている子どもにむかつて、

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円

『お隣のおっちゃんに怒られるからやめとき!』と叱っている母親のようなものです。(怒られるからではなく、靴の裏でおっちゃんのズボンを汚したら迷惑がかかるから、やめさせるのでしょうか?)

差別用語は、ほとんど無意識にどうか、悪気なく口にされたとしても、聞く人によっては深く傷つくものです。

確かに、前述したような、半ば公然と確信的にそれらの言葉が発されることはもはやなくなつたとはいえ、いわゆる“健全な人”たちが、ハンディを持った人たちに対して、「潜在的に」抱いている『見下した気持ち』『忌み嫌う気持ち』が、なにかのほずみでつい『本音』のごときニュースで口をついて出る、ということはありません。

それら潜在している気持ち(すなわち差別意識)を私たちの心の中から一掃するところこそが、私たちに課された命題でしょう。

『私たちはここまで、ハンディを持つあなたにたに配慮しているんですよ。だから、

こうやって不謹慎な発言はリアルタイムでチェックして、謝らせているんです。』と、審査委員会のお偉方はおっしゃるでしょうが、その反応が迅速過敏であればあるほど「ややこしいものは封じ込める」的な『魂が入りきっていない』禁止至上主義』みたいな空気を感じ取ってしまうのです。

最近なぜかあまり見かけなくなつた? だつこちゃんも、カルピスの“くろんぼ”も、落語のアイドル与太郎も・・・みんな出てきてください!

集まりましょう!

そして身体や、知的や、精神障害者や、高齢者も、そして、みんなも・・・人間、誰だつて大なり小なりは、心や身体に課題を抱えているものですから。

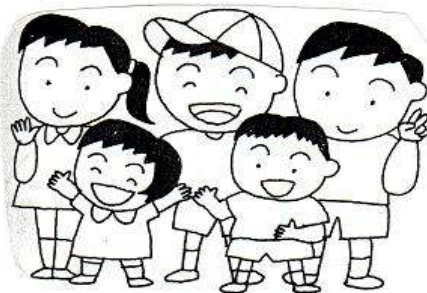
そもそも、人が人を「見くだす」ことなど、あつてはならないのです。

みんなが、さりげなく、当たり前のこととして、一緒に行動し、一緒に暮らす。

その中で、たまたま「あの言葉」が口を出しても、心の根底に「そのような意識」が、無いことをお互いが分かり合つていけば、笑つて済ませられるのではないのでしょうか。

むしろ、最近の、若年犯罪や学校・企業に蔓延する陰湿な『いじめ』のキーワード『死ね』

『辞める』
などにこそ、究極の『差別意識』が宿っているような気がしてなりません。



芳川 雅美

ありがとうございました!

『あかねニュース』購読料(賛助会費)のお振込みをお願いしましたところ、500件を超える入金を確認いたしました。

ほんとうに心から、こころから、御礼申し上げます。

振込用紙の通信欄に、メッセージを添えてくださった方々も、たくさんいらつしやいました。

「毎回楽しく読ませていただいていますので、是非、続けて発行してください。」

「夏祭り、又、お手伝いに行きます。」

「皆さんお元気でお仕事頑張ってください」「頑張ってください。主人も空から応援しています。」

「購読料のことがずっと気になっていたので、今回のことは良かったです。」

「色々大変ですが頑張ってください。」

「いつも楽しみにしています。」

どれもこれも、大変うれしく温かいものばかりでした。

それぞれのお名前を拝見しながら、本来ならお一人お一人に、お返事を書きたい想いに駆られました。このページをもって心から御礼申し上げます。お許し下さい。

「あつ!あの方だ。」

「この方は、あの時に会った方だ。」

一枚一枚に目を通しながら、私たちに對する温かいご支援を感じて、言葉にならないほど、「感謝」で一杯です。

障害を持つ人たちが、地域の中で「共に生きる」といいながらも、暗中模索で今まできました。

そんなおぼつかない私たちが、ここまで来られたのも、本当にこれほど多くの方々の支援があったことを、今更ながら改めて強く実感しました。

これからの取り組みにしっかりと、私たちに出来ることを模索しながら、弱者の立場に立ちきった活動を目指して、頑張っていきたいと思えます。

障害者やその家族が置かれている状況や、その他の情報を地域の皆さんに、お知らせする手段としての大切な障害者低料金郵便の制度の悪用は、許されるものではありません。

当事者・私たちへ大きな負担が強いられることになりましたが、皆様の温かいご支援に励まされて、また、頑張ることが出来ます。

世の中は今、多くの問題をかかえて病んでいます。そんな時代だからこそ、『自分さえ良ければ』ではなく、人間が人間らしく生きるために、『共に支えあい』『励ましあう』社会ができれば・・・

そこにはきっと、温かく心優しい生きやすい社会があると思うのです。

『自己責任』ではなく『共存』の理念に戻りたいものです。

感謝

富田 啓子

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円

世の中は「新型インフルエンザ」で大変な騒ぎだったが、その影響はあかねにもやってきました。

5月のゴールデンウィーク明け、川西にも感染者がひろがった時点で、食べ物を扱っているということもあり、三日間作業所を休みにした。県・市からの要請ではなく、自主的に休業した。

笑顔の伝染 ②

休業となってもいつも弁当を注文してくださる方々が、いらつしやるので、職員だけで、お弁当つくりと配達をする事となった。作業所メンバーのいない弁当つくり。

日頃より、職員が中心になって仕事が進んでいる！っと思っていたら、ところがどっこい！

朝一番、注文をお伺いする電話のかけ方でとまどい、あたふた。

いつもなら、メンバーが完璧に数・大盛・小盛・割り箸の要・不要まで教えて知らせてくれているのだが、その日、出来あ

がると、なぜか、二つ多い！

やれやれ、拳句の果てにはどの人のお弁当にも箸をつけてしまう始末。どの方がマイ箸をもっているなんて知らないのだから、情けないが仕方が無い。

どうにかこうにか、お弁当を作り終え、振り返ると、シンクには鍋やタッパなど、山積みになっている。

これも、いつもは黙々と拭いてくれるメンバーがいるのです。

まだまだ困ったことは続出。副菜を入れるアルミカップが、途中で無くなってしまい、すぐに使えるのが見当たらない。



いつも、誰に言われるでもなく、アルミカップをすぐに使えるようにセットしてくれているメンバー。

ああ！この作業所は、ホントに、共に働く作業所だあ！と思いきらされた。

その中でも、私たち職員が、一番情けなく、失笑してしまったことは。

その日の洗濯物を洗い、干した方がいいが、取り入れるのを忘れ、翌日の朝まで干しっぱなしだったこと。

もう、恥ずかしくって、メンバーにはとても、言えないとおもった。

新型インフルエンザのおかげで、・・・メンバー一人ひとりのお陰で、毎日、お弁当をお客様に無事届けることが出来ているのだと、改めて、気づかせてもらえた三日間だった。

岡田 小月

活動余話

あかね・蛍の夕べ

五月のある夜、『あかねの夢』でTさんが、「蛍、見に行こう」と声をかけてくれた。さすがに即、話がまとまり、六月六日夕刻、夢に集合してそのときを待った。

カレーライスで腹ごしらえしたが、作業所のメンバーたちも土曜夜の突然のイベントにワクワク・ガヤガヤ。

四台の車に分乗して出発。猪名川町を越え、ここは、宝塚か三田か?というあたり(蛍保護の為秘密)で車を降りると、暗闇の河原に小さな光の点々が・・・

「わあー! いたいた!」河原を飛び交う蛍に、あかね一行は老いも若きも大感激し、ジュースで乾杯。

私たちは、草むらで捕らえた蛍を夜空に

放し、ほんわか灯るあの生きた光で心をつばいにして、帰路に着いた。

その夜、みんな幸せな眠りについたはず。言いだしつぺのTさん、私たちに素敵な夕べを有難う。来年もまた行けますように。

西海 ゆう子

あかね元氣寄席

五月十七日、川西市商工会館にて第二回あかね元氣寄席が開催されました。雨の中ではありましたが、多くの方々のご来場にて笑いと涙のある楽しい寄席となりました。「小さな規模でも地域の中で定着した、気軽に楽しめるイベントを」ということで始めさせていただいた元氣寄席。

落語など古典芸能は、普段興味はあっても、足を運んでまでは・・・そんな方々が行ってみようかな?と思える身近なものになっていけばと思っています。

第一回は林家染二さん、今回は林家文華さん。そして、この秋、十月二十五日、林家染二さんの再演を予定しています。是非みなさん一緒に。 渡辺 誠

コツコツで、もう四年!

あかねにボランティアとして?

「会社をリタイアしてからやから、もう四年になるねえ、はやいものです。」

あかねはどこで?

「家族ぐるみでお付き合いしていたHさんの紹介があつて・・・」

きつかけは?

「ヘルパー2級の資格があつたので、なんらかの形で役立てたかつたし、自分を試してみたかつた。」

どんな形でボランティアを?

「週に一回、水曜日、弁当の配達と回収を弁当班のメンバーと一緒に。それと、水曜と木曜の朝8時〜9時の間でOくんの送迎を」

印象・感想などフリートークで!

「Oくんに、あいさつがわりに、コップの水を早業で飲まれた?!ビックリ。でも運転が好きだし、メンバーとも仲良く、楽しくやらしてもらっています。」・・・今や貴重な戦力となっている岸本さんでした。

毎日発行

一九九一年九月三日 第三種郵便物認可

頒価

定価 一〇〇円

地域パートナー紹介

その⑦

イナウインズ

今回ご紹介のイナウインズさん。ここ数年、十一月のあかねまつりに参加頂き、心地よい音色とリズムで盛り上げていただいています。

はじめまして、イナウインズ・ジャズオーケストラです。中には初めてイナウインズを知った方も居られると思いますので、簡単な紹介がてら中身の部分に触れてみたいと思います。

私たちは社会人の集まりで猪名川町を拠点に活動しています。結成当初はメンバーの半数以上は地元民でしたが、それが今では町から脱出した人が多いせいかな五人しか残っていません。

本来のビッグバンドの編成は17名となっていますが、でも私たちのメンバーは

あくまでアマチュアバンドなので、音楽をこよなく愛する人であれば入部可にしています。ある程度の補充は仕方ないですね。その関係でそれぞれのパートの定員が予想より増えて困ってしまうことも多々あります。

では、各パートの紹介をして見ましょう。アルトサクソフーン(4人) テナーサクソフーン(3人) バリトンサクソフーン(1人) トロンボーン(4人) トランペット(5人) ピアノ(1人) ベース(1人) ドラム(1人) パーカッション(1人) ボーカル(1人)・・・以上22名となっています。

結成して早や13年、ほんとにいるんなことがありましたね。スタートの頃は確か6人くらいだったと思います。今のようになまだジャズはやつてなく、簡単な楽譜をこなしていました。正直言ってまだそのレベルじゃなかったんですね。

あれから年月も経てばジャズキチの間が徐々に増えてきてあつという間に現在に至ります。

最近ではメンバーも複数のバンドを掛

けもちするようになり、時代も変わって昔では考えられなかったのですが、今ではプロとアマの壁が無く一緒にやるケースも増えてきました。

皆さんお気づきにならないかもしれませんが、コンサートとかライブの時に、たまにプロをゲストに呼んでやったりします。新しい血を交えながらやらなければバンドは活性化しないですね。

音楽はほんと、永遠だし人生がありますね。本番ライブは年に7〜8回ほど行なってますけど、ほんとに年中忙しく、慌しく疲れてでも頑張れるのは、そこには達成感と感動が、あるからでしょう。

麻葉みたいなもんですかね(笑)

このエネルギーは多分、お客さんからも頂いているような気がします。

いろんな人に支えられ励まされ、こまめやつてくれたのが、ほんと感謝・感謝です。相撲コトバではないですけど、これからも全身全霊がんばってやっついていみますので、厚いご声援よろしくおねがいたします。イナウインズ代表 倉元 洋一

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円

お出会い情報**～あかね行事へのお誘い～**

①ザ・あかねの夏 恒例・夏祭り納涼祭出店にふるってご参加ください!

7/25 (土) 東谷・清和台・光風台・北小 7/26 (日) 東谷・清和台

8/01 (土) グリーンハイツ・大和

8/02 (日) グリーンハイツ・大和

8/08 (土) のせぐち

8/09 (日) のせぐち

8/22 (土) 松ヶ丘

(注) 特に7/25は四ヶ所でピンチです!ヘルプ!

②剣山ふもとで過ごす「あかね徳島キャンプ」8/29 (土)～30 (日) 一泊二日

今年はお盆周辺を避けて、なおかつ一般参加・ヘルパーさんが参加しやすいようにと、土日にし一泊にしました。十家さん今年もよろしくお祈りします。

**寄付金・カンパ・助成金の
ご報告とお礼**

畦野の松浦様 牛島 源喜様
河戸 昭子様 河井 稔様
天下井 治男様 野波 紅子様
片山 安代様 鶴沼 文子様
向 直子様

賛助会費を頂いた五百余名の方々
ありがとうございました!

編集後記

「新型インフルエンザ」余話つづき
あかね作業所を自主休業すると決めた日、
市障害福祉課へ相談に行った。

いつも、あかねのガイドヘルプを利用し
ているYくん、こやの里養護(いや、今は
特別支援学校?)の中等部、学校が臨時休
校になっているので、あかねが、作業所で
預かってヘルプしたいのだが・・・と。

普段から親の負担が過重なので心配し
ていたのです。もちろん、うちが出来る公

的なサービスとしてはガイドヘルプなの
で、その旨を告げると、答えはダメ!
じゃー、こういう場合、誰が、どのような
形でケアできるんですか?と問うと首
をひねるばかり。

支援法では、やたらと「線引き」が目立
つ。障害を「程度」という線で細かく線引
きし(それも実態にそぐわない介護保険の
基準で)生活のパターンをこれまた細かく
線引きし、それによって利用できるサービ
スが決まる。何気なく普通に過ごすこと
には現存のサービスの適用が難しい。

支援法の前、支援費制度の前、川西市が
やっていたガイドヘルプには、まだ裁量の
幅?があった。移動介護の活動内容が次の
ようになっていた。「道案内・代行」「コミ
ュニケーション支援」「身体介護」・・・
少しは温かい行政の裁量の幅?が感じら
れた。

話はおかなくて、賛助会費の件ですが、ま
だお振込みになっておられない方に、もう
一度お願いしております。趣旨(ご理解のう
え、ご協力をお願いいたします。 内海

毎日発行

一九九一年九月三日

第三種郵便物認可

頒価

定価

一〇〇円